

1.はじめに



食品包装は内容物を保存安定させるため、密封包装が現在の流通システムの中で、ますますその必要性が増してきています。この食品包装に対する消費者の苦情理由に関する調査報告を見ると開封に難するものが多い。例えば、あまりにも強固なシールが形成されると開封が非常に困難になり、包丁やカッターで切らなければならなかったため不便、あるいは無理に開けると中身が変形したり、飛び出してしまうなどである。手で容易に開封出来るビーラブル性が要求され、消費者の便利性へのニーズはますます強くなっている。

また、テアーテープ、感圧の封緘テープなど簡単に易開封性を付与した包装形態は古くからあったが、密封性の優れたシールと易開封性を兼備したイーペーリル形式が普及したのは最近の事である。最初はカップヌードルの蓋材に見られるようにホットメルトをコートしたもののが中心だったが、作業性・シール強さの安定化、耐熱性などの要求もあって、各種イージーピールフィルムが開発されてきた。最近のコンビニの発展は著しく、簡便なイージーオープン容器のニーズは非常に高く、今後ますますイージーピールフィルムの要求が高くなるものと予測されます。

2.剥離機構の特徴 Fig.

剥離方式	機 構	シール強度安定性	夾織物シール性	線シール性	剥離面状態
界面剥離	蓋材 容器と蓋材のシーラントの界面剥離	△	○	○	○
層間剥離	蓋材のシーラントが2層以上の多層で第1層(薄膜層)と第2層(中間層)との層間での剥離	○	○	△	○
凝集剥離	蓋材シーラントの凝集破壊による剥離	○	○	○	△

(A)

(B)

(C)